

ふるさとの鼓動
北に生きる心
むすんで

こぶし

第123号

発行責任者：横井正人

特定非営利活動法人 民族歌舞団こぶし座

TEL/FAX: 0 1 3 8 - 5 4 - 2 8 5 9

E-mail: kobusiza@m19.alpha-net.ne.jp

2007年1月1日発行

編集：機関紙局

北海道函館市陣川町 122-172

年3回発行

http://www.aa.alpha-net.ne.jp/kobusiza

主な内容

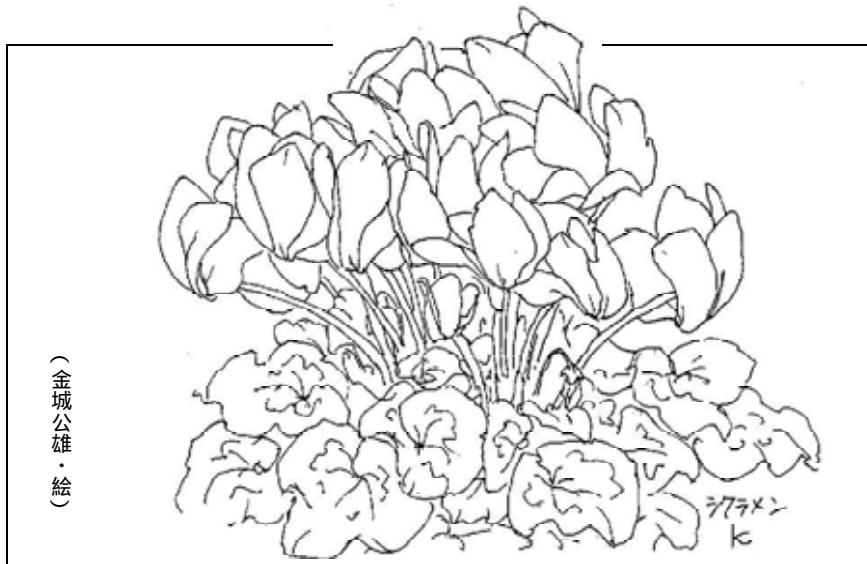
- (1) 新年のごあいさつ
- (2) 一般公演の取り組みから
- (3) こぶし座に期待する
- (4) お知らせ

謹賀新年

本年もどうぞよろしくお願い致します

二〇〇七年 元旦

特定非営利活動法人(NPO法人)
民族歌舞団こぶし座社員一同



(金城公雄・絵)

- 理事長 横井正人 (座員)
- 理事 中尾雄児 (座員)
- 理事 計良 徹 (座員)
- 理事 計良正子 (座員)
- 監事 金城公雄

- 横井ひとみ (座員)
- 松岡智恵美 (座員)
- 田畑悟志 (座員)
- 村田さつき (座員)
- 橋本かおり (職員)
- 岩島 司
- 梶原康男
- 國田修司
- 西東英範
- 志賀松 晋
- 志賀松智恵美
- 古川喜美子
- 三浦恒雄
- 三浦芙美子

新年のごあいさつ

理事長 横井正人

謹んで新年のお祝いを申し上げます。

昨年の記念公演では多くの方から励ましやご協力を頂き、新しい作品での全道公演を行う大事な出発点にすることが出来ました。賜りましたご支援に対して心からお礼申し上げます。

秋からの一般公演では、記念公演の感動と新しい出会いへの期待を胸に各地域を回りましたが、どの会場も客席から拍手やかけ声がかかり、笑いも出るなど観客と一体となった舞台となり、これからの活動への確信を持つことができました。

公演後の交流会では実行委員会や文化協会の皆さんが、地域の中で文化の火を長い間灯り続けてきたことに誇りと喜びを持って語り歌う姿にふれ、地域でがんばる人達がいてこそ、私達こぶし座も続けてこれたのだと実感致しました。

お忙しい中、公演を準備して下さった各地域の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

さて今年も、全道各地にいつそう公演を広めること、そして「こぶし座基金」の取り組みを大きく前進させることを柱に活動して参ります。

今、様々な政治状況の変化から住み慣れた土地で暮らすことがいつそう困難な状況が生まれ、過疎化によって地域崩壊が進み、公演が出来ない所も増えてきています。また各自自治体予算の減、授業時数の減から芸術鑑賞がなくなり、学校公演の回数も激減している状況です。

この厳しい状況を乗り越えて行くには、私達の力だけではどうしても足りません。

これまで、NPOの精神でこぶし座の活動をたくさんの人達と共に進めることを模索し、「昨年からの一つとして、基金」による財政支援をお願いして参りましたが、今年はより多くの皆さんにご協力を頂けるようにパンフレットを作成し、新年早々ではありますがお封させて頂きました。

生きる喜び・働く誇り・明日への夢を語り合える活動をめざし、座員一同、力を合わせ進んで参ります。

皆さんのいつそうのご支援を心よりお願い申し上げます。新年のごあいさつと致します。

一般公演を取り組んで...

新しい演目での一般公演が、いよいよスタート!!
木古内町・八雲町・共和町の取り組みを紹介します。

昨年十一月、創立四十周年記念公演の新しい作品を持って、七市町で公演しました。

初日の八雲町では「若人の集い」による実行委員会が取り組んでくれ、南幌町では文化協会が主催し前座に「なんぼる俵つみ唄」の歓迎演奏がありました。

中富良野町では文化協会創立五十周年記念として、男性役員全員が「江差のもちつきばやし」を踊り、また共和町では開基百五十年記念事業として実施され、「共和もちつきばやし」の演奏後に「俵半もの餅がまかれました。

木古内町・比布町・旭川市では地元の方々から応援をもらい、こぶし座が事務局を担当する自主公演を行いました。

今、景気が落ち込み文化費が削られている時ですから心配もありましたが、町づくりの一つとしてこぶし座を迎えてくれ、「今こそ出番ですよ」と、私たちは背中を押されるような励ましをもらい力が湧いてきました。

制作部 中尾雄児

八雲町公演を終えて

実行委員長 佐藤正之

開演前に舞台の幕の影から会場を見渡すと、たくさんのお客さんが目に入り、驚きとともにほっとした瞬間でした。今回のこぶし座公演の取り組みは、準備が遅れ、公演の1ヶ月前に実行委員会を立ち上げたという状況でした。

* *

私の中では、かつて若人の集いで一緒に活動した田畑君のいるこのこぶし座八雲公演に特別の思いがありました。が、全体の取り組みを通じて地域の皆さんと関わり、公演準備やチケット売りを経験することで達成感や仲間同士の信頼関係を築くことができたと感じていました。しかし、事前のメンバー間の話し合いが少なく、公演の準備やチケット売りが初めてのメンバーも多い中で取り組みの目標がみんなに浸透していませんでした。

実行委員会には、常に7

10名が集まりチケット集約や公演の準備、餅つきばやしの練習などを行ってきました。チケットの売り上げは、はじめはなかなか伸びず、はらはらどきどきの連続でしたが、

最後は何とか赤字にならず終わることができました。実際、当日いらしたお客さんも多く、やはり地道に地域に根ざした活動をしてきたこぶし座の力だと感じました。公演当日はたくさんのお客さんが入り、ちよつと冷や汗の出たメンバーの餅つきばやしも無事に終わり、交流会も盛り上がりました。反省点も多い取り組みでしたが、この経験を私達の地域の活動につなげていければと思っています。

* *

最後には公演に足を運んで下さった皆さん、こぶし座の皆さん、実行委員のメンバー、協力して頂いた方皆さんに深く感謝しております。ありがとうございました。



「この街が好きさ
きみがいるから」

共和町 古谷美恵子

こんな気持ちを一人数でも多くの人と通い合わすことができたからと始まったこぶし座の取り組みでした。

高石ともやが京都を歌った「街 この共和版を若者達に創ってもらおう。そして、会場に足を運んでくれた人達と一緒に口ずさめたら素敵だな。そんな私の思いに付き合ってくれた若者三人。聴いたこともなかった歌を覚え、共和バージョンを創ってくれました。そして、開基150年ということと6回目の公演ということで、もちつきばやしの演奏も共和町という提案がこぶし座からありました。

* *

11月までには、間に合わないのではと躊躇している私に、「俺、歌ってもいいよ」「どうせやるのなら本番で俺たちだけで吹けるようにしたい」という力強い仲間の言葉で今回の演奏が実現しました。

また、つき手が5人足りないと聞いた時、その場で携帯電話をかけ合って仲間を集めてくれた4Hクラブの若者。12名の農業後継者との出会い



成しました。天候にも恵まれ、360名の人達が会場に足を運んでくれました。

『北の漁師の昔語り』には、「俺たち百姓は絶対に土を離れちゃ生きられねえ」共和もちつきばやし「誕生の記念すべきこぶし座公演になりました。

忙しい公演の合間をぬって共和町に足を運び指導して下さい、みんなの力を引き出してくれたこぶし座の皆さん、ほんとうにありがとうございました。

『共和もちつきばやし』

詞・古谷美恵子

今年が開基150年 みんな揃って餅つきだ

共和の自慢の見せ所 さーさ皆さん手拍子を

ワイスの山から見ろせば 裾野に広がる共和町

雪解け水の恵みを 受けて息づく田や畑

親父の開拓精神を 受け継ぎ続ける若者が

心を込めて作り上げ 生きる喜び伝えます

アイヤー ソレン

家族総出で収穫だヨスイカ投げなら任せとけ
スイトコンの朝もぎはネ夜露うけて甘みます
ネットが気になるメロンはネ 温度調節大事だよ
黄金色に垂れ下がる夕日に輝く共和米

俺たち百姓は絶対に 土を離れちゃ 生きられねえ

心一つに力を合わせ ついたこの餅強い腰

長い歴史のこまに 刻もうみんなの心意気

ついたついたぞこの餅を 食べてみんなで頑張ろう

